

国立公園
ガイドブック

世界自然遺産

パークガイド

知床



知床国立公園

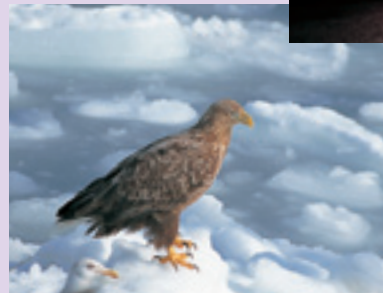
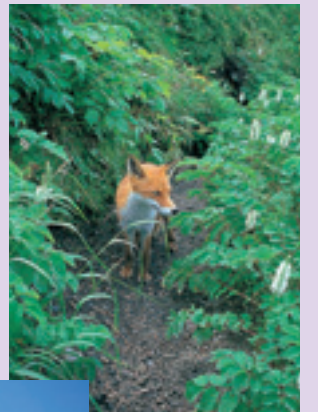
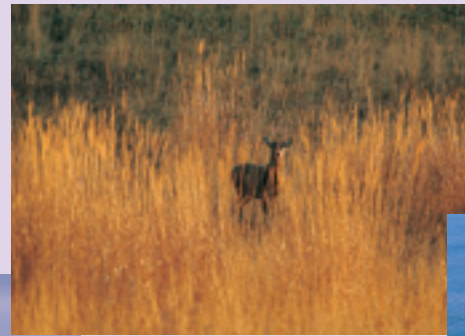


パーク ガイド 知 床

しれとこ

目 次

- 知床への誘い.....2
- 知床の四季.....4
 - 愛する知床 畑 正憲.....4
- 知床国立公園のプロフィール.....12
 - 知床へのアクセス.....13
- 知床国立公園索引図.....14
- 知床世界遺産センター.....16
 - オシンコシンの滝.....16
 - 道の駅「うとろ・シリエトク」.....17
- 知床五湖景観ガイド.....18
- 知床五湖地上遊歩道.....20
 - 知床五湖フィールドハウス.....20
 - 知床五湖パークサービスセンター.....22
 - 冬の知床五湖.....22
- 知床自然センター.....23
- フレベの滝遊歩道.....24
 - 冬のフレベの滝.....25
- カムイワッカ湯の滝.....26
- 知床自然体験ツアー.....27
- 知床連山の登山.....28
 - 岩尾別コース / 羅臼温泉コース / 縦走コース / 硫黄山コース /
原生林に覆われた秘境の山々.....29
 - 携帯トイレをしよう！.....29
- 羅臼ビジターセンター.....30
 - 羅臼温泉園地遊歩道.....31
- 羅臼湖トレッキング.....32
- 羅臼周辺ガイド.....33
 - 知床横断道路と知床峠 / 羅臼の間欠泉 / 野趣あふれる熊の湯 /
セセキ温泉と相泊温泉 / 観光船.....33
 - 熊越の滝遊歩道.....33
 - 道の終点・相泊から先は野生動物の聖地.....34
 - 知床世界遺産ルサフィールドハウス.....35
- 海から見た知床半島.....36
 - 小回りのきく小型観光船.....36
 - 冬の使者・流氷.....37
- 知床半島の成り立ち.....38
- ヒグマ.....40
- エゾシカ・キタキツネ・その他の動物たち.....42
- 多様な環境にすむ豊かな野鳥たち.....44
 - オジロワシ・オオワシの調査.....44
 - 海鳥たちの営巣地.....44
- オホーツク海の動物たち.....46
 - アザラシとトドの違い.....47
- 花図鑑.....48
- 漁業のあゆみ.....52
 - 漁業の歴史 / サケ定置網漁業 / 漁師の作業場・番屋
サケとマス.....53
- 知床開拓としれとこ100平方メートル運動.....54
 - 国立公園指定と観光客の増大 / 原生林の保護と新たな課題の解決
- 主要機関・交通機関・観光案内問い合わせ一覧.....56



知床五湖地上遊歩道

知床五湖は、これまでヒグマの出没によって歩道が閉鎖されることが度々あり、また、世界自然遺産登録を機に、多くの観光客が集中したことによって、植生の荒廃などを招いた。

これらを解決するため、平成二十三年から知床五湖を散策する際の利用ルールが導入された。五湖をめぐる地上遊歩道は、全期間を三つの時期（「ヒグマ活動期」、「植生保護期」、「自由利用期」）に分け、それぞれ利用の仕方が異なる。このうち、「ヒグマ活動期」と「植生保護期」は、地上遊歩道を歩く前に、利用者全員に事前手続き（有料）と、レクチャー受講が義務づけられている。手続きは、遊歩道入り口にある知床五湖フィールドハウスで行っている。

1 立ち枯れた木々

遊歩道に入りしばらく行くと、樹皮がはがされ立ち枯れた木々を目にする。エゾシカが食べた跡である。



春から秋にかけて草本類を中心に食べているエゾシカは、冬の積雪期になると樹皮を食べて餌をしのぐ。彼らの目的は樹皮そのものではなく、樹皮のすぐ内側にある形成層、すなわち根から吸い上げた水分や養分の通る組織である。そのため、樹皮を全周食べられると木は枯れてしまう。

近づいてよく観察すると前歯で削ぎ取った歯の跡が見られる。人の背丈より高いところまで樹皮がはがされているが、これは積雪によりエゾシカの立つ位置が高くなるからである。

近年、エゾシカの増加により、樹皮はぎによる枯死木が増えていく。樹木だけではなく、エゾシカが好む草本類も激減。もしくは姿を消し、ここで観察できる植物の種類が極端に減っている。

エゾシカの増加は平成二年頃から始まっているが、エゾオオカミなどの天敵が絶滅したことなど、複数の要因が考えられている。知床の生態系のバランスや生物の多様性を守るためにも、エゾシカを適正な数まで減らすことが、急務と考えられている。

2 水辺の生きもの

四月下旬、ようやく湖の水が解け、水辺の生きものも活動し始める。



産卵するエゾアカガエル

春一番に目にするのが、産卵のために水辺にたくさん集まるエゾアカガエルだ。ゼラチン状の卵塊が湖畔を埋めつくし、五月中旬には、卵からかえったオタマジャクシで水面がまっ黒に見える場所もある。

初夏からは、ニホンアマガエルも産卵を始める。春から夏にかけて、湖の周辺から賑やかに聞こえるカエルの声は、このニホンアマガエルである。水中では、ゲンゴロウの仲間やミスムシの仲間が泳ぎ、体が透明なスジエビが湖底を歩く姿を見ることがもできる。

五月下旬から八月にかけては、さまざまなトンボが湖畔の植物につかまって羽化をする。水辺には多様な生きものたちが活動しているため、立ち止まって視線を低くして観察してみよう。きつと、小さな生きものたちの首みに出合えるはずだ。

3 知床五湖の成り立ち



四湖

知床五湖は、名前のとおり五つの湖が原生林の中に点在する。湖をめぐるコース沿いでは、大小さまざまな岩を目にするが、この岩は知床連山の一角をなす、硫黄山の山頂付近が山体崩壊したときに流れてきたものだ。

硫黄山から知床五湖周辺は、この岩が堆積し、岩と岩の間に隙間があるので、雪解け水や雨水は川にはならず地下水となり流れる。そのため、知床五湖には流入する川はなく、その地下水が湧き出でてきた湖である。湖に流入する川がなければ、本来、魚類は生息しない。しかし、このあたりが農業開拓された際にフナ、コイ、ニジマスなどが放流され、現在はギンブナだけが生き残り、生息している。

4 知床を代表するトドマツ

針のようにとがった葉をつける針葉樹と、広い葉をもつ広葉樹が混在する知床の森は、針広混交林と呼ばれる。

知床五湖で見られる針葉樹は、樹皮が灰色のトドマツである。北海道にはトドマツのほか、エゾマツ、アカエゾマツなどが自生しているが、知床ではこのトドマツが多く見られる。

トドマツはクリスマスツリーに使われるモミの木の仲間でもミ属に分類され、エゾマツ、アカエゾマツはトウヒ属に分類される。見分け方のポイント、トドマツは

5 ミスナラの大木

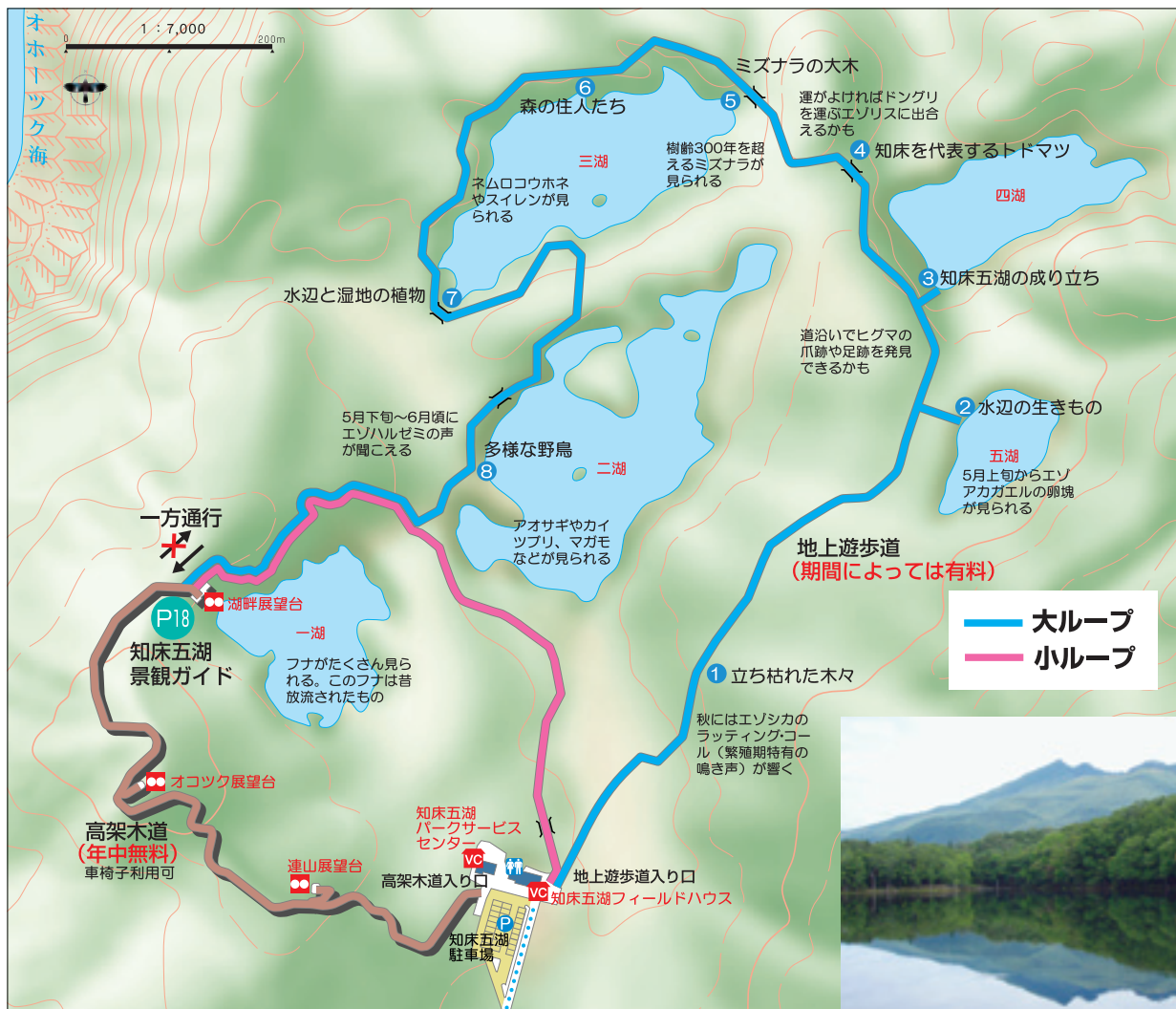


トドマツの幹の凍裂

葉の先が二つに分かれ、少し丸みを帯びているが、エゾマツ、アカエゾマツの葉の先は、針のようにとがっている。葉の先を手でさわると、トドマツは痛くないが、エゾマツ、アカエゾマツの葉は、チクチクと痛みを感じる。

また、トドマツの幹をよく見ると縦に樹皮が裂けていることがある。「凍裂」と呼ばれる現象で、厳冬期にマイナス二十以下になると、木の中の水分が凍り、幹が膨張することによって樹皮が割れるのである。

五湖周辺に見られる広葉樹は、針葉樹より種類が多く、ミスナラをはじめカエデの仲間のイタヤカエデやハウチワカエデ、キハダ、ホオノキ、オオバボダイジュ、エゾヤマザクラ、ナナカマドなどが



知床五湖フィールドハウス



知床五湖の地上遊歩道入り口にある知床五湖フィールドハウスは、地上遊歩道を利用する際に、立ち入り認定手続きやレクチャーを行う施設だ。

中へ入ると広いカウンターがあり、常時スタッフが対応している。「植生保護期」は申請書に記入し、料金を支払い、立入認定証を受け取ってから、約10分の事前

レクチャーを受ける。利用のルールとヒグマとの遭遇時における回避方法などを確認したあと、地上遊歩道に出ることになる。「ヒグマ活動期」は、ヒグマの危険を避けるため、登録引率者同伴限定（有料）となる。事前に登録引率者のガイドツアーの申し込みが必要だ。「自由利用期」は利用者が少なくなり、手

続きなしで散策できる。しかし、この地がヒグマのすみかであることは変わらないので、知床五湖フィールドハウスで最新のヒグマ情報を確認すること。なお、地上遊歩道内はトイレや売店がないので、レクチャー前に済ませておこう。

知床五湖ホームページ
<http://www.goko.go.jp/>

地上遊歩道 利用料金	植生保護期	ヒグマ活動期	自由利用期
	開園～5/9、8/1～10/20 有料 大人(12歳以上)250円、 子供100円	5/10～7/31 登録引率者のガイドツアー限定 ガイド料金(必ず申し込みが必要)	10/21～閉園 無料